

「わー、メッチャきれい」「スゲー、光ってる」「床がピカピカやん」「病院みたい」「へー、大学の教室みたい」「これ、ヤバイない？」……何のことやら、さっぱりわからないでしょうね。

じつは、ちょうど2年前、新校舎に初めて足を踏み入れた君たちや君たちの先輩が、思わず口にした感想の数々です。

それまでの校舎は築後50年近く経過していたので、コンクリートの壁なのに、その継ぎ目あたりには隙間ができ、外から太陽の光が差し込んでくるような状態でした。そんな校舎で勉強していた君たちの先輩からみれば、6階建てでエレベーターがついて、全教室エアコン有り、なんていう新校舎は「そんなの、あり？」と、ちょっと信じられないだろうと思います。

先日、和工祭と同時に行われた新校舎の竣工式で仁坂知事から「この校舎には、和歌山県としても、うんと奮発しました。」との祝辞を頂いたくらいですから、相当な費用がかかっています。

私たちは、そんな校舎で勉強できる事を感謝しなければいけないはずですが、皆さんの気持ちの中に、その思いは存在しているのでしょうか。

いつしかピカピカだった廊下には、ジュースをこぼした跡やガムの吐き捨てが見られるようになり、「きれいな校舎を大切にしよう」としている人はいるのか、と思っていたところに、あろうことかタバコまで吸いだす生徒が現れてしまいました。3階や4階の大使用トイレに灰をちらかし、吸い殻を残したまま、という有様です。

「ガムを吐き捨てたのは、俺じゃない。タバコを吸ったのも、俺じゃない。俺のせいじゃないから関係ないやん」という人ばかりです。確かに皆さんのせいではありませんが、誰かがタバコを吸い、きれいなトイレを汚しているのです。

汚したのは誰であろうと、ここは、あなたが勉強する場所です。そして私の仕事場です。だから、私はタバコで汚れたトイレがあれば、キレイに掃除しようと思います。

♪『おばあちゃんがこう言った トイレには それはそれはキレイな女神様がいるんやで だから毎日キレイにしたら 女神様みたいに ベっぴんさんになれるんやで』 唄<トイレの神様:植村花菜>

和工にも「トイレの神様」が居るはずですが、私は、ベっぴんさんにはなれませんが、男前になれるかもしれません。みんなも自分の家のつもりで、学校のトイレや廊下や教室をキレイにして卒業すれば、きっと…心が…“ベっぴんさん”や“男前”な大人になっていることでしょう。

産業デザイン科 奥田 恭久